

# 社史で見る 日本経済史

第I期～第IV期

全58巻・別巻1

産業発展のダイナミズムの解明に、  
また企業経営の抱える諸問題の究  
明に、現代を切る不可欠の資料群。

「社史は、企業戦略の具体的な事例集であり、企業経営を学ぶ際のケーススタディの宝庫である。」(村橋勝子『社史の研究』) 経営学、経営史学研究に最適な社史を厳選、財務データの集積ではこぼれ落ちてしまう、企業の歴史の襲までたどれるような社史を収録。

ゆまに  
書房 YUMANI  
SHOBUN



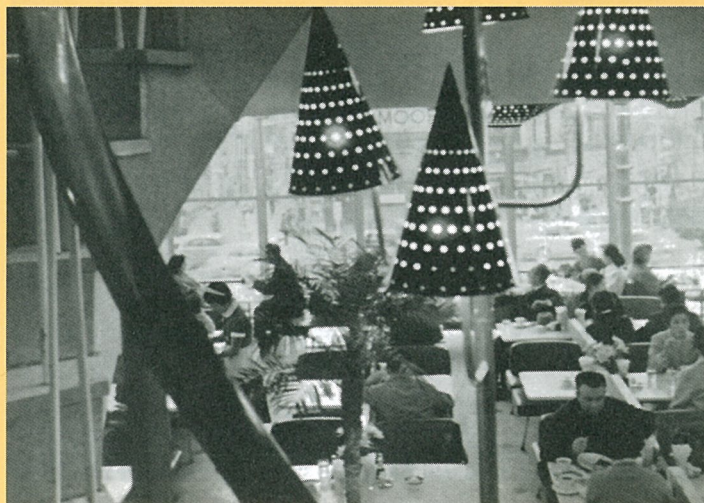
『住友銀行三十年史』(1926年・株式会社住友銀行刊)より



『横濱護謨製造株式会社 四十年史』(1959年・横濱護謨製造株式会社刊)より



『高島屋百年史』(1941年・株式会社高島屋本店刊)より



『不二家・五十年の歩み』(1959年・株式会社不二家刊)より

## 第Ⅰ期・全17巻＋別巻1の構成

※第1巻～第17巻は現在品切れ中です。

### ◆第1巻◆芝浦製作所六十五年史

（東京芝浦電気・1940年）

利用価値の高い資料的性格を持つ組織編、財務データを満載している会計編など、第一級の経営史料。東京電気との合併を機に、芝浦製作所の最後を飾ろうという情熱がこもる。

### ◆第2巻◆東京電気株式会社五十年史

（東京芝浦電気・1940年）

電力事業の発達や輸入電球との競争などの市場条件も加味して描いた沿革編は重要。主要製品の改良発達史も身近で興味深い。「芝浦製作所六十五年史」と併せて電気産業の発達を知る貴重な文献。

### ◆第3巻◆花王石鹼五十年史

（花王石鹼五十年史編纂委員会・1940年）

冒頭に日本の石鹼工業史が描かれ、リーディング・カンパニーの名に恥じない社史である。その後の産業史研究の発展に大いに寄与した。生産・財務等の経営のファンクションをきちんと押さえている点で今日でも十分通用する。

### ◆第4巻◆浅野セメント沿革史

（浅野セメント・1940年）

戦前期ながら経営データの公開に積極的に取組んだ点が高く評価される。欧米と日本のセメント産業史にも触れられている。

### ◆第5巻◆別子開坑二百五十年史話

（住友本社・1941年）

住友財閥の基礎となった別子銅山の歴史。戦前の作品としては白眉。資料の利用の堅実性や煙害問題に十分に触れた点が特筆される。

### ◆第6巻◆小野田セメント製造株式会社創業五十年史

（小野田セメント製造・1931年）

沿革・工場史・技術・労務という叙述パターンは後続社史のモデルとなった戦前の模範的社史。

### ◆第7巻◆東京電灯株式会社開業五十年史

（東京電灯・1936年）

初期電力事業の歴史を知る最重要資料。水力発電が主力となる契機となった駒橋水力発電所建設等興味深い叙述も多い。

### ◆第8巻◆片倉製糸紡績株式会社二十年誌

（片倉製糸紡績・1941年）

戦前に刊行された唯一の製糸企業の本格的社史。その後の同業社史にたびたび参照されている意味でも先駆的な社史であった。

### ◆第9巻◆倉敷紡績株式会社回顧六十五年

（倉敷紡績・1953年）

一万鍾規模紡績会社の製品が機械制輸入綿糸を駆逐してめざましく発展していったという事実の貴重な記述がある。生産過程の発展や労働問題がよく書けているのが一つの特色である。

### ◆第10巻◆日本製鉄株式会社史

（日本製鉄・1959年）

日本製鉄の成立から解体まで全過程を詳細に描き、統計資料や製鉄合同論の関連資料の学術的価値も高い。総合的社史の模範といわれる。

### ◆第11巻◆紅 ―伊勢半百七十年史―

（伊勢半・1959年）

日本の紅の歴史を中心に風俗史・女性史を視野に入れた「日本化粧史」を叙述する意図のもとに編まれたというユニークな社史。

### ◆第12巻◆株式会社秀英舎沿革誌

（秀英舎・1922年）

大日本印刷の前身で近代的印刷業の嚆矢となった秀英舎の歴史。

### ◆第13巻◆福助足袋の六十年（近世足袋文化史）

（福助足袋・1942年）

単なる社史にとどまらず、江馬努氏執筆になる附録をはじめ、近世から近代にかけての服飾文化史としての意義も高い。

### ◆第14巻◆安田銀行六十年誌

（安田銀行・1940年）

金融財閥といわれた安田財閥の中心として発展し、1923（大正12）年には全国一の規模を誇った安田銀行の歴史は、そのまま日本金融史の一級の資料である。

### ◆第15巻◆日本勧業銀行史特殊銀行時代

（日本勧業銀行調査部・1953年）

1950（昭和25）年までの農工業に対する政策融資を担ってきた特殊銀行時代の歴史を描いている。福島正夫を中心とする研究会の成果が十分に生かされている。数ある銀行史の中でももっとも優れた部類に入る。

### ◆第16巻◆三井銀行八十年史

（三井銀行・1957年）

経営の変化と発展を中心とする叙述は読むだけで魅力があるが、戦前の重要史料の公開に積極的であり価値の高い史料を公開し、全体の整合性と統合性に優れた高水準の社史である。

### ◆第17巻◆京都電灯株式会社五十年史

（京都電灯・1939年）

早い時期からの水火併用の電源開発、競争会社だった京都電気の買収など、第一次世界大戦以前の電力事業の詳しい記述は、貴重な資料である。

### ◆別巻◆日本社史名著解題（付 大日本銀行会社沿革史）

別巻監修：由井常彦

第17巻までの社史解題と経営史における会社史利用の方法論的論考を収録。「大日本銀行会社沿革史」は、1913年・東都通信社刊。明治維新から大正初年までに創立された全ての銀行と会社の沿革史を網羅した貴重資料。

## 第Ⅱ期・全16巻の構成

※第26巻～第33巻は現在品切れ中です。

### ◆第18巻◆内外綿株式会社五十年史

（内外綿・1937年）

1887（明治20）年に大阪の繰綿問屋が設立した綿関係商社。代表的な在華紡に成長し、国産綿に加え、中国・インド・アメリカの各綿および輸出綿を扱う。1911（明治44）年の上海工場新設以降、在華紡の中心的存在となる。敗戦で大損害を蒙り、1949（昭和24）年に解散。本書は、日本における多国籍企業のパイオニアといえる在華紡の活動を伝える資料である。

### ◆第19巻◆京都織物株式会社五十年史

（京都織物・1937年）

1887（明治20）年、渋沢栄一など東京・京都の財界有力者が京都府營模範工場繰殿の払い下げを受けて設立した洋式力織機を使用した織物会社。洋式織物から南京縞子へと製品を転換し、洋反物商の販売網を生かして売り上げを伸ばすが、1968（昭和43）年解散。本書は、織物産地として伝統のある京都の戦前を代表する会社の社史として貴重である。

### ◆第20巻◆宝田二十五年史

（宝田石油・1920年）

日本における石油会社の草分け的存在。1892（明治25）年、新潟県下の東山油田地区に創設され当初無名であったが、翌年宝田石油と公称するようになる。同地区以外からも採油に成功し、また他社を合併して屈指の石油会社に成長。1921（大正10）年、日本石油と対等合併する。同社は明治期の石油産業を代表する会社であり、本書も石油会社の社史の草分けである。

### ◆第21巻◆大阪電灯株式会社沿革史

（編輯兼発行者萩原古寿・1925年）

同社は東京電灯、京都電灯とともに日本の電力事業の勃興期を代表する企業であり、本書は前述二社の『五十年史』と並ぶ貴重な資料である。叙述の特色としては、先見性を発揮した交流発電機の早期採用、宇治川電気や民間電鉄会社四社との電力需要契約、大阪市との報奨契約が挙げられる。日本の電力事業の勃興期である第一次世界大戦期の事情を伝えるものとして興味深い内容である。

### ◆第22巻◆大同電力株式会社沿革史

（大同電力社史編纂事務所・1941年）

同社は、両大戦間期の五大電力を代表する会社であり、その社史である本書

は、「東邦電力史」とともに同時代を代表するものである。その内容からは木曾川筋での水力発電所の建設、外債発行のいきさつ、東京や大阪への進出にともなう「電力戦」の様相が詳しく描かれ、ボリュームのある叙述が展開されている。

### ◆第23巻◆東京瓦斯五十年史

（東京瓦斯・1935年）

日本のガス会社の本格的社史としては最も古い。1885（明治18）年会社設立から1935（昭和10）年までの50年を、第一次世界大戦と昭和恐慌を画期として三つの時代に区分、「創業時代」「受難時代」「復興時代」として叙述する。会社創設の事情、関東大震災の被害とその復旧、社内の労務管理など興味深い論点が盛り込まれている。

### ◆第24巻◆藤本ビルブローカー証券株式会社三十年史

（藤本ビルブローカー証券・1936年）

同社は現在の大和証券の前身。五代藤本清兵衛が大阪で始めた個人営業が1906（明治39）年に株式会社へと発展し、1933（昭和8）には藤本ビルブローカー証券として発足。同社は日本における証券会社の嚆矢であり、また本書も戦前に刊行された数少ない証券会社史のひとつとして貴重な資料である。

### ◆第25巻◆明治生命五十年史（付 明治生命四十周年記念）

（明治生命・1933年）

明治生命は近代的生命保険会社の先駆けであるが、本書も同業界における最初の本格的社史といえる。沿革と統計資料のバランスが良く、コンパクトにしかも網羅的にまとめられて資料的な価値が高い。またエピソードや役員履歴なども付されており、当時の雰囲気も伝わる貴重な中身となっている。付載の『明治生命四十周年記念』も好資料である。

### ◆第26巻◆和歌山紡織株式会社五十年史

（和歌山紡織・1942年）

和歌山紡織は、1889（明治22）年和歌山紡績として開業、1941（昭和16）年戦時合同で大和紡績となった中堅紡績四社のひとつである。本書は綿紡績業の発展を伝える、戦前期に刊行された貴重な社史のひとつ。また、「和紡の南」か「南の和紡」と言われた南権太郎の伝記を補う好資料である。

### ◆第27巻◆郡是製絲六十年史

（郡是製絲・1960年）

郡是製絲（現グンゼ）は、1896（明治29）年、大製糸工場を望んだ郡是（郡の方針）により創設された。昭和初期には片倉製糸に次ぐ有力かつユニークな製糸会社に成長した。本書は、蚕種・原料繭から製糸・加工・販売をはじめ創業者の波多野鶴吉の思想や従業員教育まで豊富な原資料を利用した記述が充実している。

### ◆第28巻◆旧王子系四製紙会社社史 小倉製紙工場沿革概要

（小倉製紙所・1924年）

### 浅野家の有恒社と株式会社有恒社

（関彪編・株式会社有恒社・1924年）

### 東洋製紙株式会社沿革史 中之島製紙の沿革

（中野敏雄・1928年）

現在の王子製紙の母体であった、戦前の旧王子製紙に相次いで合併・吸収された明治期創業の製紙四社の貴重な社史。明治以降の日本の洋紙製造業の発展の歴史を伝える。戦後作られた『王子製紙社史』（全5巻）の原資料。

### ◆第29巻◆大日本人造肥料株式会社五十年史

（大日本人造肥料・1936年）

大日本人造肥料株式会社は、わが国初の化学肥料会社として、1887（明治20）年東京人造肥料会社として誕生。のち、日産コンツェルンに参画し、現在の日産化学工業の前身のひとつとなった。本書は、戦前の化学工業会社の経営史研究にとって高い資料的価値をもつ社史である。

### ◆第30巻◆池貝鉄工所五十年史

（池貝鉄工所・1941年）

### 日立製作所史

（日立評論社・1949年）

池貝鉄工所（現池貝）は、1889（明治22）年池貝庄太郎が国産第1号の旋盤を作ったことから始まる日本を代表する先駆的工作機械メーカーであり、この分野では戦前のほとんど唯一の社史といえる。『日立製作所史』は、1920

（大正9）年の設立以来、戦前の日立の発展が、創立者の小平浪平を中心に如実に記述されたすでに定評のある、しかし入手の困難な社史である。

### ◆第31巻◆韓国二於ケル第一銀行

（第一銀行・1908年）

第一銀行（現みずほ銀行）は、1873（明治6）年第一国立銀行として設立された近代的銀行の嚆矢である。第一銀行は、1957、58（昭和32、33）年に高水準の『第一銀行史上下』を刊行したが、明治期の本書は、日本の植民地研究者からも重視されている稀観本である。

### ◆第32巻◆株式会社大阪堂島米穀取引所社史 大阪堂島米商沿革

（大阪堂島米穀取引所・1903年）

### 株式会社大阪堂島米穀取引所沿革

（井口青雲堂・1912年）

### 株式会社大阪堂島米穀取引所沿革

（大阪堂島米穀取引所・1915年）

これら三冊は、江戸時代から続く大阪堂島の米穀取引の明治期の変貌と発展を研究するうえで、不可欠な資料となっている。情報量の充実さが、現在でも価値を失っていない。

### ◆第33巻◆建業回顧 ―三菱電機株式会社社史 満30周年記念出版

（三菱電機・1951年）

本書は、戦後間もない時期の社史であるが、経営史の古典的文献として今日でも高い評価を与えられている社史である。沿革・技術の進歩・経営及び制度の推移の順に叙述されているが、合理化の叙述や経営の諸側面の分析が優れている。回顧談の貴重な証言はそのままで、価値ある史料となっている。

## 第Ⅲ期・全10巻の構成

### ◆第34・35巻◆立業貿易録

（三菱商事・1958年）

解説：三島康雄

三菱商事の戦前の歩みを記した「社史」。凡例第一条に、「本書は旧三菱商事株式会社の各種取引につき、其起源及爾後発達の概要を記録したもの」とあるように、三菱商事が取り扱った商品を個々に詳述する体裁をとっている。内部資料をふんだんに用い、関係者からの証言も求め、統計表も「なるべく社内遺存のものを採録」する。「親展書類を資料とした」ため、「社外秘」となった「社史」であり、「三菱社誌」にも未収録である、研究者渴望の貴重な資料。

### ◆第36・37巻◆トヨタ自動車20年史

（トヨタ自動車工業・1958年） 解説：小林英夫

本書は写真を多用し、章立ても「自動車の国ニッポン」「めばえ」「戦争と量産」「廃墟のなかから」「あらし」「花ひらく」「世界へ」と、平易を心がけたスタイルを取っている。会社創立前夜から筆を起こし、創立20周年を迎えて新たな飛躍を展望する内容。戦中戦後の混乱を乗り越えてモータリゼーションが日本でも本格化しつつある世相を背景にして描かれた「世界のトヨタ」の前史。当時としては先駆的な社史であった。他に関係者の手記、会社資料、年表を付す。



「トヨタ自動車20年史」（1958年・トヨタ自動車工業刊）より

## ◆第38巻◆日石五十年

(日本石油・1937年)

解説：宮里立士

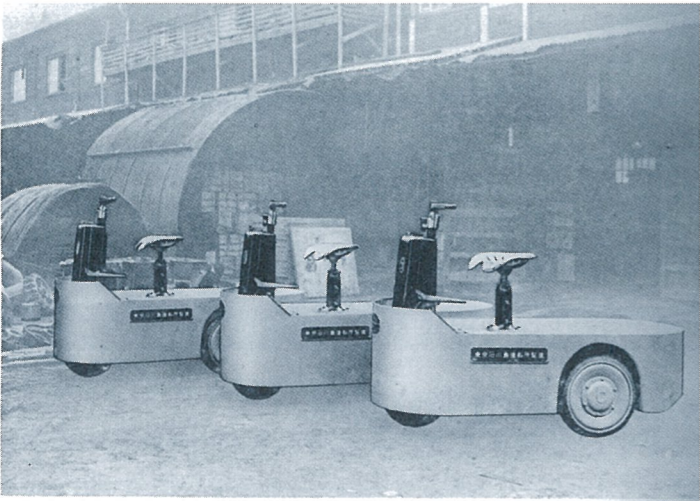
日本石油（現・JX日鉱日石エネルギー）は、五度にわたって会社史を刊行しているが、本書はそのなかでももっともコンパクトにまとめられている。その特徴は、他が日本の石油業界全般を記述する体裁をとっているのに対し、戦時下という制約の多い時期ということもあって、「日石」の歩みに即した点である。数々の統計と比較的多くの写真を掲げ、日本石油の歴史とその当時の姿を概観する小部ながら興味深い好社史。

## ◆第39巻◆東京石川島造船所五十年史

(東京石川島造船所・1930年)

解説：寺谷武明

同社は、株式会社IHI（旧名・石川島播磨重工業株式会社）の前身企業のひとつで、最も古い西洋型造船所にして、民設造船所の嚆矢である。本書は、維新前後から始まる同社の歩みを当時の資料、関係者の証言から編纂。その手掛けた代表的事業を「各種工事経歴概要」として収める。経営に携わった渋沢栄一が序文で、自らの実業の生涯を東京石川島造船所の50年と重ねて回顧する。戦前期を代表する造船会社の重要資料。



「東京石川島造船所五十年史」（1930年・東京石川島造船所刊）より

## ◆第40巻◆

## 澁澤倉庫株式会社三十年小史

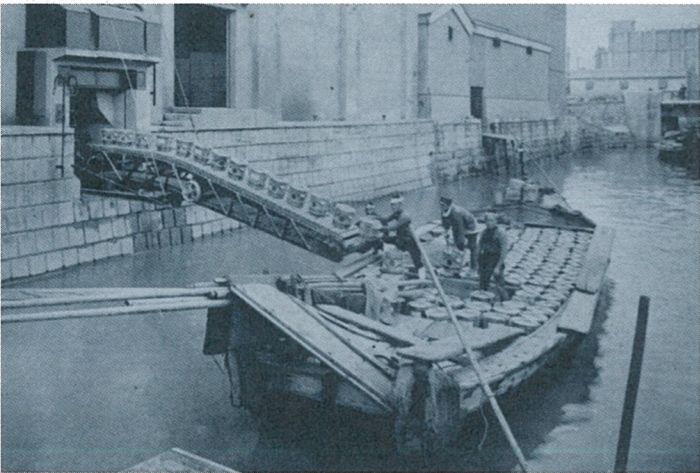
(澁澤倉庫株式会社・1931年)

## 澁澤倉庫六十年史

(澁澤倉庫株式会社・1959年)

解説：宮里立士

澁澤倉庫は、今日、渋沢の名を冠する唯一の企業。栄一が長男篤二に深川在の土蔵で、経営見習いを命じたことに始まる（『三十年小史』の篤二序）。関東大震災で同社の記録が焼失した後、同社参与の利倉久吉の手控えと記憶に基づき『小史』はまとめられるが、その内容は煩雑を排した読みやすいものである。『六十年史』は、渋沢敬三が序文を寄せ、前半で『三十年小史』の不備を補い、後半にそれ以後の歩みを記す。両書は、渋沢家と因縁深い企業の発展史として興味深いものである。



「澁澤倉庫株式会社三十年小史」（1931年・澁澤倉庫株式会社刊）より

## ◆第41巻◆高島屋百年史

(高島屋本店・1941年)

解説：末田智樹

文政年間、京都の古着屋から出発した高島屋が、幕末明治に官軍御用、皇室御用達を承り、規模を拡大し、個人営業から合名会社、「株式会社高島屋呉服店」として東京に進出し、「株式会社高島屋」として再編するまでの百年とその後の10年が編まれる。内部資料をふんだんに用い、また百貨店らしい多彩な図案や写真も多数掲載する。関西を拠点とする代表的百貨店の発展を、近代日本の流通産業史を背景として描かれる。

## ◆第42巻◆住友銀行三十年史

(住友銀行・1926年)

解説：岩間剛城

三井住友銀行の前身銀行のひとつであり、住友財閥のメインバンクとして、その淵源は元禄期まで遡る。両替商から始まり、明治に入り住友家単独の銀行経営が株式会社へと改組。またはやくから海外業務にも力を入れる。堅実を基調とした同行の30周年を記念して編纂される。同行30年の叙述は簡潔に記されるが、組織内容、そして内外各支店に関する記述もよく整理され充実している。末尾に年表も置かれ、今日でも資料的価値の高い社史。

## ◆第43巻◆明治火災保険株式会社五十年史

(明治火災海上保険株式会社・1942年)

解説：米山高生

業界最大手の東京海上日動火災保険株式会社の前身会社のひとつであり、戦前における代表的損害保険会社の五十年史。同社は、創成期の保険業界に尽した荘田平五郎、阿部泰蔵によって明治21年に相互組織、「火災保険会」としてスタート。同24年に株式会社となる。日本経済が未熟であった創業当初、その経営は危ぶまれたが、その後のたゆみない経営努力により、発展の緒につく。戦時下ながら近代日本の損害保険業も概観する貴重社史。

### 第Ⅳ期・全15巻の構成

## ◆第44巻◆日立鉱山史

(日本鉱業株式会社日立鉱業所・1952年)

解説：佐藤哲彦

日立鉱山は、藤田財閥出身の久原房之助が操業不振の赤沢銅山を買収したことに始まる。藤田組在籍中に小坂銅山（秋田）再建を手掛けた久原等による同山への最新技術導入・設備拡充が詳述され、同山が久原鉱業（後に日本鉱業）の中核に発展する経緯が描かれる。鉱工業研究のために貴重な文献。

## ◆第45巻◆精工舎史話

(平野光雄著、精工舎刊・1968年)

解説：宮里立士

時計史研究者として著名な平野光雄が執筆。時計産業の歩みを概観しながら、資料を博捜し関係者からも談話を取り、その沿革を描く。「あとがき」の後に参考諸表。「セイコーウォッチの歩み」「服部時計店、精工舎、第二精工舎年表」を置く。いまなおセイコーグループの代表的な社史である。

## ◆第46巻◆アイデアの50年：早川電機工業株式会社50年

(早川電機工業株式会社・1962年)

解説：宮里立士

早川電機工業（現・シャープ）創立五十周年記念事業の一環として編纂。「写真の配列によって会社の歴史が一見してわかる様に編集」。文章よりも視覚に訴える内容。しかしそこから創業者・早川徳次の度重なる苦難に立ち向かう姿勢と同社が常に新事業にチャレンジする姿を立体的に表現する。

## ◆第47巻◆東洋工業株式会社三十年史

(東洋工業株式会社・1950年)

解説：ゆまに書房編集部

1920年、コルク製造業から始まった東洋工業（現・マツダ）の三十年史。広島に本拠を置く企業として同地の財界人の支援を受け、同郷出身の実業家・松田重次郎の経営で発展。自動車の「マツダ」の前史的内容であり、特に創業者・松田重次郎の同社経営の事蹟を辿れる、資料的価値の高い社史である。

## ◆第48巻◆横濱護謨製造株式会社社 四十年史

(横濱護謨製造株式会社・1959年)

解説：宮里立士

横濱護謨製造株式会社は、1917年、古河財閥系横濱電線製造株式会社（現・古河電工）と米国B F グッドリッチ社の合併で創立。高級ゴム製品の国内生産を目的とする。次代の高度経済成長での同社の新たな展開を予感させる内容となっている。

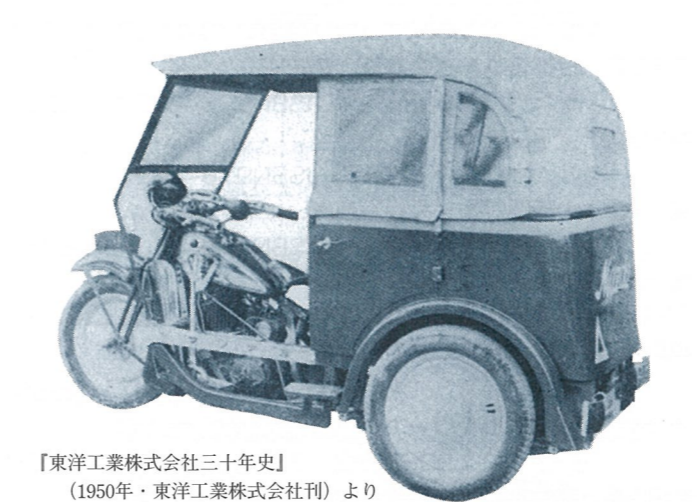
## ◆第49巻◆東京瓦斯七十年史

(東京瓦斯・1956年)

解説：宮里立士

東京瓦斯株式会社は多くの社史を刊行しているが、本書は本格的社史『東京

瓦斯五十年史』（ゆまに書房から1999年復刻）に続くもの。関東大震災の資料焼失などもあり、明治期資料の採録が五十年史に欠けていたため、新たに構想されたことが、「あとがき」で述べられる。充実した社史といえる。



「東洋工業株式会社三十年史」

(1950年・東洋工業株式会社刊)より

## ◆第50巻◆藤田組の五十年

(藤田組・1960年)

解説：佐藤哲彦

藤田組（現・フジタ）は、1910（明治43）年に藤田一郎、定市兄弟が広島で土木請負業を開始したことによる。大正昭和に全国的に事業を拡大、また軍請負の海外進出や戦後の業績拡大など、平易な文体で述べられる。今は見られない建築物の写真を多数掲載するなど建築史的価値も高い社史。

## ◆第51巻◆函館船渠株式会社四十年史

(佐藤庄治編、函館船渠刊・1937年)

解説：ゆまに書房編集部

函館船渠株式会社（現・函館どつく）創立40年を期し、「本社に保存されて居る諸記録日記等を整理しこれを基礎として創立前後から昭和十一年十一月現在迄の沿革の大略を記述編纂したもの」（『本書編纂に就て』）。附録に年表等とともに創業当時の回想を収録し、また、工場や工事風景、手掛けた船舶の写真は興味深い。昭和戦前期の造船会社の典型的な社史。

## ◆第52巻◆不二家・五十年の歩み

(不二家・1959年)

解説：宮里立士

藤井林右衛門が1910年、横浜元町に開いた洋菓子店。当初から外国を意識したモダンな会社作りを目指した。大正以降の日本の都市中産層の生活スタイルを先取りする洋菓子や店舗作りで成長し敗戦の痛手も乗り越えて行く歴史を描く。カラー写真等で製品を紹介、平易で読みやすい社史。

## ◆第53巻◆

## 日本楽器製造株式会社の現況

(山葉寅楠翁銅像建設事務所・1929年)

## 山葉寅楠翁

(山葉寅楠翁銅像建設事務所・1929年)

## 山葉の祭り

解説：後藤隆基

日本楽器製造株式会社（現・ヤマハ）は、山葉寅楠が浜松でオルガン製造を始めたのが起源。『山葉の祭り』はその50年を記念して刊行。同社が楽器のみならず、プロペラ製造にも携わってきたことを伝える。写真を多用する稀観書。前二著は会社創立30年記念にまとめられたもの。

## ◆第54巻◆三越

(百貨店商報社・1933年)

解説：末田智樹

「かくも光輝ある各店の過去を物語るに、未だ一の百貨店史すら編著されてゐない」と、本書の冒頭、「日本百貨店総覧発刊の辞」のなかで、編輯兼発行人である百貨店商報社社長の小松徹三は述べている。そして「其の第一巻として『三越』を編纂した次第」という。始めに置かれる「我国百貨店の発展段階」では業界の概観が説かれるが、次の項目からは「三越の功労者日比、藤村両翁を語る」など新旧社員の回顧から近代の三越が語られる。また「某実業界名士談」などの三越に対する外側からの評価や「文献から見た越後屋と三越」といった論証的文章も並び多角的視点から三越が浮き彫りにされる。

## ◆第55巻◆松坂屋三百年史

(百貨店商報社・1935年)

解説：末田智樹

松坂屋の始祖は織田家遺臣の伊藤家。「当初名古屋に興り、次で東京と大阪とにそれぞれ驕足を伸ばした」が、「今日までその沿革や内容があまり詳しく世間に知られ得ないし」、「容易に窺ひ知ることが出来なかつた」。『松坂屋三百年史』の発行を企ててより爾来約一ヶ年、煩ひを厭はず労を嫌はず、古文書日記録の類は勿論、東西の古老を歴訪し、その片言隻語も聞き洩すなく「世に公にすることにした」と、自序で小松徹三は述べる。本編十四編、別録に「伊藤家、松坂屋回顧談片」など二編を配し、松坂屋発展の軌跡を明らかにする。

## ◆第56巻◆北日本汽船株式会社二十五年史

(田邊貞造、畠中隆輔編・1939年)

解説：宮里立士

1914（大正3）年創立。日露戦後、日本領となった南樺太と内地を結ぶ輸送が増えゆく中で同業者同士の競争が激化、また航路間の連絡が不便であることに鑑み、樺太庁の主導で関係船主合同により創立する。樺太北海道間を主軸に北方日本の港を結ぶ。大陸との定期航路も開設するが、1943（昭和18）年に戦時下の海運統制で大阪商船に吸収合併される。本書は第一章「沿革」で、社の歴史を概観し、次いで第二章「船舶」、第三章「資本」、第四章「事務組織」、第五章「営業所」、第六章「業績及財産」と続く。また附録として年表、図表とともに「樺太に関する挿話」と題する樺太紹介記事も興味深く貴重である。

## ◆第57巻◆大日本セルロイド株式会社史

(大日本セルロイド株式会社・1952年)

解説：橋本規之

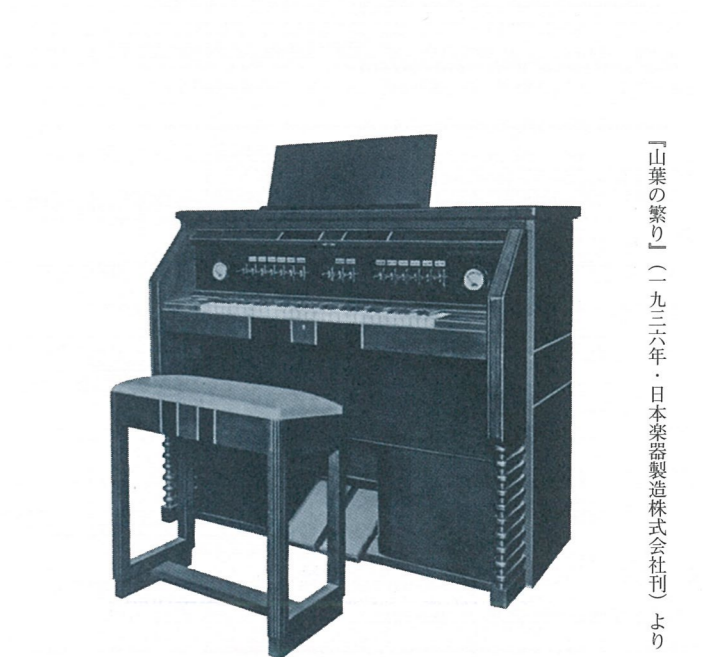
ダイセル化学工業の前身・大日本セルロイドの30年史。1919（大正8）年、大日本セルロイド初代社長・森田茂吉が「本邦に於けるセルロイド事業の確立進展のため」、同業八社を統合をして誕生。同社は写真フィルムの国産化も目指し、ここから富士写真フィルムも誕生する。「昭和十二年にはセルロイドは生産額、品質ともに世界に首位を占」め、「その製品は世界四十数ヶ国に輸出される」。有機合成化学事業や醋酸繊維事業にも進出し、「茲に漸く総合化学工業会社たる形態を具備する」。敗戦後の混乱がいちおう終息した時期の、先行メーカーとして日本の化学産業への貢献を率直に語る社史である。

## ◆第58巻◆新潟鐵工所四十年史

(山下良彦編・1934年)

解説：佐藤哲彦

1895（明治28）年に日本石油株式会社の付属事業として設立され、その後、1910年に分離独立する。石油事業の機械類の製作を目的に、あわせて日本海側の産業振興のため、新潟港を本拠とした。しかし当初は事業進展が進まず、本社を東京に移転することで事業の拡大と全国展開を計る。新潟工場、柏崎工場、長岡工場に続き、東京の蒲田工場建設と同工場のディーゼル機関の製造は、新潟鐵工所の発展に大いに貢献する。本書は四十年に渉る創業以来の沿革概要を述べ、歴代社長の小伝と重役支配人の異動、新潟鐵工所年表と主要製品発達史、同社の業態を簡潔にまとめた社史である。



「山葉の祭り」(一九三六年・日本楽器製造株式会社刊)より

# 社史で見る日本経済史

第I期～第IV期 定価・ISBNコード一覧

- 第I期 全17巻(第1巻～第17巻)＋別巻1  
【解説】由井常彦 ＊第1巻～第17巻品切  
揃定価：本体368,000円＋税 ISBN978-4-89714-287-6 C3321  
◎第1回配本 全6巻 品切・1997年12月刊  
揃定価：本体120,000円＋税 ISBN978-4-89714-288-3 C3321  
第1巻 芝浦製作所六十五年史  
品切・定価：本体15,000円＋税 ISBN978-4-89714-291-3  
第2巻 東京電気株式会社五十年史  
品切・定価：本体20,000円＋税 ISBN978-4-89714-292-0  
第3巻 花王石鹼五十年史  
品切・定価：本体23,000円＋税 ISBN978-4-89714-293-7  
第4巻 浅野セメント沿革史  
品切・定価：本体22,000円＋税 ISBN978-4-89714-294-4  
第5巻 別子開坑二百五十年史話  
品切・定価：本体17,000円＋税 ISBN978-4-89714-295-1  
第6巻 小野田セメント製造株式会社創業五十年史  
定価：本体23,000円＋税 ISBN4-89714-296-8  
◎第2回配本 全5巻 品切・1998年2月刊  
揃定価：本体120,000円＋税 ISBN978-4-89714-289-0 C3321  
第7巻 東京電灯株式会社開業五十年史  
品切・定価：本体16,000円＋税 ISBN978-4-89714-297-5  
第8巻 片倉製糸紡績株式会社二十年誌  
品切・定価：本体20,000円＋税 ISBN978-4-89714-298-2  
第9巻 倉敷紡績株式会社回顧六十五年  
品切・定価：本体27,000円＋税 ISBN978-4-89714-299-9  
第10巻 日本製鉄株式会社社史1934～1950  
品切・定価：本体38,000円＋税 ISBN978-4-89714-300-2  
第11巻 紅一伊勢半百七十年史一  
品切・定価：本体19,000円＋税 ISBN978-4-89714-301-9  
◎第3回配本 全6巻 品切・1998年7月刊  
揃定価：本体110,000円＋税 ISBN978-4-89714-290-6 C3321  
第12巻 株式会社秀英舎沿革誌  
品切・定価：本体6,000円＋税 ISBN978-4-89714-302-6  
第13巻 福助足袋の六十年 近世足袋文化史  
品切・定価：本体20,000円＋税 ISBN978-4-89714-303-3  
第14巻 安田銀行六十年誌  
品切・定価：本体18,000円＋税 ISBN978-4-89714-304-0  
第15巻 日本勸業銀行史 特殊銀行時代  
品切・定価：本体30,000円＋税 ISBN978-4-89714-305-7  
第16巻 三井銀行八十年史  
品切・定価：本体25,000円＋税 ISBN978-4-89714-306-4  
第17巻 京都電灯株式会社五十年史  
品切・定価：本体11,000円＋税 ISBN978-4-89714-307-1  
◎第4回配本 全1巻 1998年12月刊  
定価：本体18,000円＋税 ISBN978-4-89714-309-5 C3321  
別巻 日本社史名著解説(付大日本銀行会社沿革史)  
定価：本体18,000円＋税 ISBN978-4-89714-309-5

- 第II期 全16巻(第18巻～第33巻)＊第26巻～第33巻品切  
【監修】由井常彦 【編集】財団法人日本経営史研究所  
揃定価：本体270,000円＋税 ISBN978-4-8433-0450-1 C3321

- ◎第1回配本 全8巻 1999年10月刊  
揃定価：本体120,000円＋税 ISBN978-4-89714-810-6 C3321  
第18巻 内外綿株式会社五十年史  
定価：本体11,000円＋税 ISBN978-4-89714-822-9  
第19巻 京都織物株式会社五十年史  
定価：本体15,000円＋税 ISBN978-4-89714-823-6  
第20巻 宝田二十五年史  
定価：本体11,000円＋税 ISBN978-4-89714-824-3  
第21巻 大阪電灯株式会社沿革史  
定価：本体20,000円＋税 ISBN978-4-89714-825-0  
第22巻 大同電力株式会社沿革史  
定価：本体19,000円＋税 ISBN978-4-89714-826-7  
第23巻 東京瓦斯五十年史  
定価：本体13,000円＋税 ISBN978-4-89714-827-4  
第24巻 藤本ビルブローカー証券株式会社三十年史  
定価：本体11,000円＋税 ISBN978-4-89714-828-1  
第25巻 明治生命五十年史(付 明治生命四十周年記念)  
定価：本体20,000円＋税 ISBN978-4-89714-829-8

- ◎第2回配本 全8巻 品切・2000年12月刊  
揃定価：本体159,000円＋税 ISBN978-4-89714-811-3 C3321  
第26巻 和歌山紡織株式会社五十年史  
品切・定価：本体18,000円＋税 ISBN978-4-8433-0241-5  
第27巻 都是製絲六十年史  
品切・定価：本体32,000円＋税 ISBN978-4-8433-0242-2  
第28巻 旧王子系四製紙会社社史  
品切・定価：本体11,000円＋税 ISBN978-4-8433-0243-9  
第29巻 大日本人造肥料株式会社五十年史  
品切・定価：本体17,000円＋税 ISBN978-4-8433-0244-6  
第30巻 池貝鉄工所五十年史・日立製作所史  
品切・定価：本体14,000円＋税 ISBN978-4-8433-0245-3  
第31巻 韓国二於ケル第一銀行  
品切・定価：本体19,000円＋税 ISBN978-4-8433-0246-0  
第32巻 株式会社大阪堂島米穀取引所社史  
品切・定価：本体20,000円＋税 ISBN978-4-8433-0247-7  
第33巻 建業回顧—三菱電機株式会社社史 満30周年記念出版  
品切・定価：本体19,000円＋税 ISBN978-4-8433-0248-4

- 第III期 全10巻(第34巻～第43巻)  
【解説】三島康雄／小林英夫／宮里立士／寺谷武明／末田智樹／岩間剛城／米山高生  
揃定価：本体207,000円＋税 ISBN978-4-8433-3287-0 C3321  
◎第1回配本 全5巻 2009年5月刊  
揃定価：本体86,000円＋税 ISBN978-4-8433-3209-2 C3321  
第34巻・第35巻 立業貿易録 全2巻  
揃定価：本体38,000円＋税(分売不可) ISBN978-4-8433-3210-8  
第36巻・第37巻 トヨタ自動車20年史 全2巻  
揃定価：本体43,000円＋税(分売不可) ISBN978-4-8433-3211-5  
第38巻 日石五十年  
定価：本体5,000円＋税 ISBN978-4-8433-3212-2  
◎第2回配本 全5巻 2009年10月刊  
揃定価：本体121,000円＋税 ISBN978-4-8433-3279-5 C3321  
第39巻 東京石川島造船所五十年史  
定価：本体16,000円＋税 ISBN978-4-8433-3280-1  
第40巻 澁澤倉庫株式会社三十年小史／澁澤倉庫六十年史  
定価：本体32,000円＋税 ISBN978-4-8433-3281-8

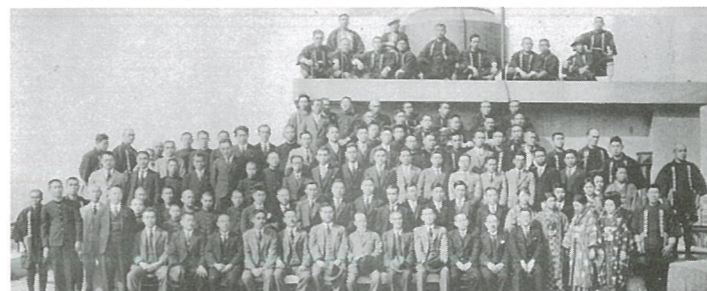
- 第41巻 高島屋百年史  
定価：本体34,000円＋税 ISBN978-4-8433-3282-5  
第42巻 住友銀行三十年史  
定価：本体13,000円＋税 ISBN978-4-8433-3283-2  
第43巻 明治火災保険株式会社五十年史  
定価：本体26,000円＋税 ISBN978-4-8433-3284-9

- 第IV期 全15巻(第44巻～第58巻)  
【解説】佐藤哲彦／宮里立士／ゆまに書房編集部／後藤隆基／末田智樹／橋本規之  
揃定価：本体261,000円＋税 ISBN978-4-8433-3758-5 C3321

- ◎第1回配本 全5巻 2010年9月刊  
揃定価：本体96,000円＋税 ISBN978-4-8433-3511-6 C3321  
第44巻 日立鉱山史  
定価：本体23,000円＋税 ISBN978-4-8433-3512-3  
第45巻 精工舎史話  
定価：本体19,000円＋税 ISBN978-4-8433-3513-0  
第46巻 アイデアの50年：早川電機工業株式会社50年  
定価：本体7,000円＋税 ISBN978-4-8433-3514-7  
第47巻 東洋工業株式会社三十年史  
定価：本体19,000円＋税 ISBN978-4-8433-3515-4  
第48巻 横濱護謨製造株式会社 四十年史  
定価：本体28,000円＋税 ISBN978-4-8433-3516-1

- ◎第2回配本 全5巻 2011年5月刊  
揃定価：本体88,000円＋税 ISBN978-4-8433-3601-4 C3321  
第49巻 東京瓦斯七十年史  
定価：本体32,000円＋税 ISBN978-4-8433-3602-1  
第50巻 藤田組の五十年  
定価：本体14,000円＋税 ISBN978-4-8433-3603-8  
第51巻 函館船渠株式会社四十年史  
定価：本体18,000円＋税 ISBN978-4-8433-3604-5  
第52巻 不二家・五十年の歩み  
定価：本体12,000円＋税 ISBN978-4-8433-3605-2  
第53巻 日本楽器製造株式会社の現況／山葉寅楠翁／山葉の繁り  
定価：本体12,000円＋税 ISBN978-4-8433-3606-9

- ◎第3回配本 全5巻 2011年12月刊  
揃定価：本体77,000円＋税 ISBN978-4-8433-3752-3 C3321  
第54巻 三越  
定価：本体15,000円＋税 ISBN978-4-8433-3753-0  
第55巻 松坂屋三百年史  
定価：本体15,000円＋税 ISBN978-4-8433-3754-7  
第56巻 北日本汽船株式会社二十五年史  
定価：本体24,000円＋税 ISBN978-4-8433-3755-4  
第57巻 大日本セロロイド株式会社史  
定価：本体13,000円＋税 ISBN978-4-8433-3756-1  
第58巻 新潟鐵工所四十年史  
定価：本体10,000円＋税 ISBN978-4-8433-3757-8



「澁澤倉庫株式会社三十年小史」(1931年・澁澤倉庫株式会社刊)より

関連企画のご案内

## 社史で見る日本経済史 植民地編 全35巻

【監修】波形昭一／木村健二／須永徳武 ＊印は品切中です  
揃定価：本体614,000円＋税 ISBN978-4-8433-1457-9 C3321

- 第1回配本 全5巻 2001年10月刊  
揃定価：本体100,000円＋税 ISBN978-4-8433-0416-7 C3321  
1. 台湾商工銀行誌(1916)ほか 本体 9,000円 ISBN978-4-8433-0417-4  
2. 京城日報誌(1920)ほか＊ 本体22,000円 ISBN978-4-8433-0418-1  
3. 朝鮮運送株式会社十年史(1940) 本体31,000円 ISBN978-4-8433-0419-8  
4. 満洲市場株式二十年史(1938) 本体21,000円 ISBN978-4-8433-0420-4  
5. 満洲中央銀行十年史(1942) 本体17,000円 ISBN978-4-8433-0421-1  
■第2回配本 全10巻＊ 2002年7月刊  
揃定価：本体165,000円＋税 ISBN978-4-8433-0569-0 C3321  
6. 台湾倉庫株式会社二十年史(1930)ほか＊ 本体13,000円 ISBN978-4-8433-0570-6  
7. 裏南洋開拓と南洋株式会社(1925)ほか＊ 本体18,000円 ISBN978-4-8433-0571-3  
8. 朝鮮興業株式会社既往十年事業概況(1914)ほか＊ 本体24,000円 ISBN978-4-8433-0572-0  
9. 創立三十周年記念 朝鮮勤農株式会社社誌(1936)ほか＊ 本体12,000円 ISBN978-4-8433-0573-7  
10. 東亜煙草株式会社小史(1932)ほか＊ 本体18,000円 ISBN978-4-8433-0574-4  
11. 株式会社立石商店廿五年沿革史(1936)ほか＊ 本体12,000円 ISBN978-4-8433-0575-1  
12. 鴨緑江林業誌(1919)＊ 本体20,000円 ISBN978-4-8433-0576-8  
13. 鞍山製鉄所事業概観(1930)＊ 本体15,000円 ISBN978-4-8433-0577-8  
14. 満洲電線株式会社開業五周年(1943)＊ 本体17,000円 ISBN978-4-8433-0578-2  
15. 満鮮拓殖株式会社五十年史(1941)＊ 本体16,000円 ISBN978-4-8433-0579-9  
■第3回配本 全7巻＊ 2003年7月刊  
揃定価：本体146,000円＋税 ISBN978-4-8433-0988-9 C3321  
16. 新高略史(1935)ほか＊ 本体14,000円 ISBN978-4-8433-0989-6  
17. 京城電気株式会社二十年沿革史(1929)ほか＊ 本体27,000円 ISBN978-4-8433-0990-2  
18. 平壤電気府営誌(1927)ほか＊ 本体24,000円 ISBN978-4-8433-0991-9  
19. 咸南合同電気株式会社沿革史(1940)ほか＊ 本体20,000円 ISBN978-4-8433-0992-6  
20. 撫順炭坑(1909)＊ 本体18,000円 ISBN978-4-8433-0993-3  
21. 大連汽船株式会社二十年略史(1935)＊ 本体18,000円 ISBN978-4-8433-0994-0  
22. 国際運輸株式会社二十年史(1943)＊ 本体25,000円 ISBN978-4-8433-0995-7  
■第4回配本 全13巻 2004年9月刊  
揃定価：本体203,000円＋税 ISBN978-4-8433-1443-2 C3321  
23. 大田電気株式会社沿革史(1937)ほか＊ 本体22,000円 ISBN978-4-8433-1444-9  
24. 大興電気株式会社発達史(1934)ほか＊ 本体16,000円 ISBN978-4-8433-1445-6  
25. 株式会社朝鮮商業銀行沿革史(1942)ほか＊ 本体20,000円 ISBN978-4-8433-1446-3  
26. 株式会社仁川米豆取引所沿革 (1922)ほか＊ 本体13,000円 ISBN978-4-8433-1447-0  
27. 朝鮮棉業株式会社沿革史(1917)ほか＊ 本体19,000円 ISBN978-4-8433-1448-7  
28. 満洲興業銀行誌(1942)ほか＊ 本体14,000円 ISBN978-4-8433-1449-4  
29. 満業並在満関係会社事業概要(1939)ほか＊ 本体24,000円 ISBN978-4-8433-1450-0  
30. 東亜勤業株式会社拾年史(1933)＊ 本体16,000円 ISBN978-4-8433-1451-7  
31. 東亜旅行社満洲支部十五年誌(1943)＊ 本体15,000円 ISBN978-4-8433-1452-4  
32. 原田商事四十年史(1944)＊ 本体17,000円 ISBN978-4-8433-1453-1  
33. 大連取引所信託株式会社略史(1940)ほか＊ 本体14,000円 ISBN978-4-8433-1454-8  
34. 台湾日日三十年史—附台湾の言論界—(1928) 本体5,000円 ISBN978-4-8433-1455-5  
35. 基隆輕鉄株式会社創業二十年史(1933)ほか＊ 本体8,000円 ISBN978-4-8433-1456-2

# 社史で見る日本経済史 第Ⅰ期～第Ⅳ期 全58巻+別巻1

\*第1巻～第17巻、第26巻～第33巻品切中

A5判/上製/クロス装/函入り

- ◆第Ⅰ期◆ 全17巻(第1巻～第17巻)+別巻1 揃定価386,400円(本体368,000円) ISBN978-4-89714-287-6 C3321
- ◆第Ⅱ期◆ 全16巻(第18巻～第33巻) 揃定価283,500円(本体270,000円) ISBN978-4-8433-0450-1 C3321
- ◆第Ⅲ期◆ 全10巻(第34巻～第43巻) 揃定価217,350円(本体207,000円) ISBN978-4-8433-3287-0 C3321
- ◆第Ⅳ期◆ 全15巻(第44巻～第58巻) 揃定価274,050円(本体261,000円) ISBN978-4-8433-3758-5 C3321

## 本書の特色

日本における会社・企業の誕生は、1869(明治2)年の通商会社・為替会社を嚆矢として、ついで銀行の設立、明治10年代末からの会社勃興期へと続きます。この140年をこえる歴史の中で、すでに明治期から会社史といわれるものが見られますが、昭和期に入り飛躍的に増加します。本シリーズは戦前から刊行されている様々な分野の数多くの社史の中から「古典」的名著といわれる社史を精選し、収録するものです。

## ●マイクロフィルム版『日本の会社史』にも未収録

東証一部上場企業を中心に、日本の著名企業の社史を網羅したマイクロフィルム版『日本の会社史』(丸善株式会社刊)にも未収録の「古典」的名著を収録。

## ●以下の特色を持つ社史を集成

■丹念に収集した文献や経営史料による高い資料的価値をもつ。■経営諸史料の公開が実現されてその適切な利用がなされた高い実証性をもつ。■企業・経営活動の歴史が、正確かつ体系的・客観的に記述されている。■単なる社史に止まらず近世から近代にかけての第一級の産業史、文化史となり、その分野の学問的水準を著しく引き上げている。

## ●別巻(第Ⅰ期)に解題・解説・貴重な資料を収録

第17巻までの社史解題と経営史における会社史利用の方法論的論考を収録。また、『大日本銀行会社沿革史』(1913年・東都通信社刊)を併録。明治維新から大正初年までに創立された全ての銀行と会社の沿革史を網羅した貴重資料。

## ●『立業貿易録』を収録

三菱商事の戦前の歩みを記した社外秘、未公開の文献『立業貿易録』を初公開(第34巻・第35巻)。

関連企画のご案内

### 社史で見る日本経済史 植民地編

[監修] 波形昭一・木村健二・須永徳武

全35巻

●揃定価644,700円(本体614,000円)  
(品切中: 第2巻・第6巻～第33巻・第35巻)

### 社史で見る日本のモノづくり

全8巻

先人が「モノ」づくりにかけてきた歴史を社史から展望。味の素・明星食品・野田醤油・神戸製鋼所・松下電器産業・川崎造船所・日本鋼管ほか。 ●揃定価155,400円(本体148,000円)

### 産業別「会社年表」総覧

全40巻

[編集協力] 神奈川県立川崎図書館 第一次産業から第三次産業まで近代日本の産業を担ってきたあらゆる部門の会社年表を網羅。産業構造の変遷が一目瞭然。 ●揃定価651,000円(本体620,000円)

### 日本百貨店総覧

全6巻

『日本百貨店総覧』(百貨店新聞社刊)他、昭和戦前期における全国の百貨店と取引業者の沿革と概要、百貨店業界関係者の名鑑等を収録。写真資料多数。 ●揃定価241,500円(本体230,000円)

### 人物で読む日本経済史

全14巻・別巻2

[監修] 由井常彦 主として明治～昭和戦前期にかけて活躍した実業家・経営者たちの「伝記」を収録。別巻には稀覯本の『財界物故傑物伝』全2巻を収録。 ●揃定価332,850円(本体317,000円)

### 戦後復興期主要産業の実態

全14巻

[監修] 中村青志 [編] 通商産業省通商企業局 ドッジ・ラインが実施された昭和24年から同29年まで、主要産業部門20件に関する詳細動向記録。 ●揃定価148,050円(本体141,000円)



〒101-0047  
東京都千代田区内神田2-7-6  
TEL.03(5296)0491  
FAX.03(5296)0493  
http://www.yumani.co.jp/  
e-mail eigyou@yumani.co.jp

●特におすすめしたい方  
経営史・経済史・企業史の研究者/企業の社史編纂などに携わっている方/大学・公共図書館など。

ゆまに書房 Tel.03(5296)0491/Fax.03(5296)0493 年 月 日

社史で見る日本経済史

ご注文書

お名前  
ご住所

取扱店

TEL ( )